



木曽林務課だより



2月

今冬は寒さのきびしい冬になっていますが、そろそろ日差しには春の気配を感じる時期になってきました。今月号の木曽林務課だよりは、嬉しいニュースをお届けします！！

令和3年度長野県ふるさとの森林づくり賞が決定しました

長野県ふるさとの森林づくり賞は「長野県ふるさとの森林づくり条例」の基本理念に基づき、森林・林業の健全な発展に資するため、地域の森林づくり・優れた林業技術・木材利用などに対して、その振興に功績のあった個人または団体に賞を贈るものです。

木曽地域からは、本年度「木曽町」が受賞されました。新型コロナウイルス感染症対策から受賞者が集合した式は執り行わず、2月14日に木曽町役場で表彰状の授与がなされました。

賞名	受賞者	功績事項
<p>信州の木利用推進の部長長野県知事賞</p>  	<p>きそまち 木曽町</p>	<p>木曽町は、2017年の「木曽町役場本庁舎・防災センター建設プロジェクトの基本構想」策定以降、「木曽産材を使う」、「木曽で製材する」、「木曽の伝統工法により木曽の職人が建てる」を基本とし、町民懇談会や学生からの意見募集、ワークショップや公開での庁舎建設検討委員会など、住民の参加でプロジェクトを進めてこられました。</p> <p>また、建設に必要な木曽産材の確保に向け、木材の使用量を把握し、事前に地元の木材流通団体と協議・調整し、地元材の確保を進め、特に構造材については、材の購入費用を本体工事に含めず、町が材を購入・支給する「材工分離発注」の実施により地域材の確保に取り組みました。</p> <p>建設された本庁舎では、カラマツ・ヒノキ等を無垢材のまま構造材に、ケヤキ・クリ・カツラをカウンターやベンチ、フローリングとして活用するなど、針葉樹、広葉樹の特性を活かしつつ、中山道の伝統の「出梁造」を活かした、耐久性とフレキシビリティを併せ持つ在来軸組構造の庁舎を実現しました。</p> <p>また、木質バイオマスボイラーの導入により、地域の再生エネルギーを年間通して冷暖房等として利用し、CO₂排出量を抑制するとともに、地域内の素材生産を含め、木質チップを安定供給できる仕組みの検討、施設整備等に取り組み、SDGsの理念の基、ゼロカーボンの推進にも取り組まれています。</p>

なお、木曽町本庁舎は、令和3年度木材利用優良施設コンクールで「林野庁長官賞」を、“信州の木”建築賞で「最優秀賞」を受賞されています（「木曽林務課だより」令和3年10月号もご覧ください。）